



臨時休校が長引く中、私たち教職員は、子供たちの声が聞こえない学校のみしさをひしと感じながら過ごしています。子供たちの生活も大きく変化しました。休校中、ご家庭に何度かお電話をさせていただき、お子さんの様子を聞かせていただく中で、様々な「大変さ」を抱えながらも、いろいろと工夫して過ごされている様子が見えきました。（大変な中でも丁寧に対応してくださるご家庭ばかりで、本当に真鶴という地域の温かさを感じました。ありがとうございます。）

最近、保護者の皆様とのやり取りの中から出てきた悩みの中で、特に多かったものが「ゲーム」に関わる心配事でした。そこで、**①ゲームに関する情報提供 ②ネット社会のリスク ③ルールづくりの仕方**の3点についてお伝えします。「今はゲームはあまりしていないな。」というご家庭も情報の共有という観点からご一読いただきたいと思います。

《ゲームをする時間が増えた！！～まなづるっ子の本当の話～》

休校になったことで、多くの子供たちが、ゲームに膨大な時間を費やしているようです。中でも戦闘系のゲーム（「フォートナイト」や「荒野行動」、「第五人格」、「モンスターストライク」など）の話がよく聞かれます。このようなゲームの中には、無料オンラインで行えるものがあり、子供たちが気軽に参加できるという点から広まっていると考えられます。しかしながら、ゲームの内容によっては残酷なシーンや残虐な行為を疑似体験してしまうため、1.5歳以上対象と制限（CEROコード）がかけられているものもあります。このようなゲームに関して、聴かれた心配や不安の声を紹介します。



言葉遣いが荒く、驚くことがあります。うまくいかないとかッションを投げたり叫んだり、気性が荒くなったようにも感じます。

コンビニでプリペイドカードを買って課金ができるようで、勝手に課金をしてしまいます。自分のお小遣いの範囲でやっているうちは、まだいいんですが…

プレイ時間が長く、ゲーム依存や脳への影響が心配です。かなり遅くまで友達とボイスチャットをしながらプレイしていたり、夜中にやっていた形跡があったり、イベントがあると言って夜中にわざわざ起きてプレイしていたり、ゲーム中心に生活しているようにさえ思えます。

ボイスチャットをしながら遊んでいるようですが、中にはゲーム内で知り合った友達もいるようです。

《リスクについて考えよう》

オンラインゲームは、ゲームであると同時に、インターネットを利用したコミュニケーションツールでもあります。「ラインいじめ」などのSNS上での問題も起こりえるものとして考えていく必要があります。

コミュニケーション上の問題

言動の荒さが実生活にも影響をもたらしたり、グループから外すなど仲間外れやいじわるをしたりされたりする可能性。

知らない人と接触するリスク

ゲーム上で知り合った友達が、実は悪意をもった大人であり、犯罪被害を受けたり、犯罪に加担させられたりする可能性。

お金に関わるリスク

際限なく使ってしまう可能性（お金を使っている実感がもちにくいため）、課金のために万引きをしたり友達に買わせたりする可能性。

情報発信に関わる問題

暴言や悪口等で誰かを傷つけてしまう可能性（相手が見えず、傷つけている実感がもちにくいため）、個人情報や漏らしてしまう可能性。

ルール作りのポイント

子供たちは一見デジタル端末を上手に使いこなしているように見えます。しかし、正しい使い方を知っているわけではありません。生活を楽しく豊かにする道具のはずのゲームが、学習や睡眠、食事等の生活にとって大切なものを害するものになってはいけません。そのことをしっかりと伝え、教えていく姿勢を、私達身近な大人がもっていることは不可欠です。学校でも、3年生以上は年1回、必ずネットマナーについて学習する機会を設定し、子供たちにもインターネットやゲーム機との正しい付き合い方について見直す場を作っています。

お子さんの生活の様子から「困ったな」「心配だな」と感じた時は、子供たちが正しくゲーム機やインターネットを使う方法を学ぶチャンスととらえ、話し合う場を設けてみてください。そして、保護者の心配していることや願いを素直に伝えながら、お子さんと一緒にルール作りをしてみてください。(町の青少年問題協議会、教育委員会からもきまりを示したプリントが出ていますので参考にしてください。)



ルールの例	解説
1 機器は、保護者が貸しているものです。ルールを守らなければ使わせません。	たとえ、お年玉やお小遣いで買うとしても、保護者の許可と管理のもとで使うことができるということ、いざというときの責任は保護者にあることを認識させ、最終決定権を大人がもつようにすることが大切です。
2 使うときはリビングで使います。	優先させるべきことが分かる人になってほしい、親に知られては困るようなことをこそそそやってほしくない、健康第一等の願いを伝え、それを守るためのルールを一緒に考えていく流れで話し合うとよいでしょう。「寝る時間が少なくなるのは体によくないよね。何時に終わればいいと思う？」等、具体的な場面を思い浮かばせながら、本人と保護者が納得しながら決めましょう。 <u>※町のルールとして、小学生はスマホ・ゲームなどの使用は夜9時までと決まっています。</u>
3 個人情報 は 教えません、書き込みません。	個人情報とはどのようなものか、個人情報が他人に知れることで思いもよらない形で悪用される可能性があること、一度流れてしまった情報は完全に回収することが困難であること等を学ぶよい機会です。丁寧に教えた上で、これらのルールが「自分の身を守るためのもの」であることを理解させることが大切です。
4 人を傷つける言葉を使いません。	ゲームは、自分にとって何のための道具か、考えさせましょう。「楽しむため」「友達と仲良くなるため」のような答えが返ってきたら、うれしいですね。「傷つけるための道具ではない」というところもしっかりと伝え、納得できるようにしましょう。
5 ネットで知り合った人と会いません。	オンライン上では、「なりすまし」や「詐欺」のトラブルがたくさんあること、悪意を持っている人たちは巧妙に隠していて、簡単には見破れないこともあることを、しっかりと理解させる機会にしましょう。
6 パスワードの入力は保護者がします。	アプリのダウンロードや課金は、保護者の管理の下で行うことが大切です。お金の大切さやありがたみを分かるようになってほしいこと、節度節制のある使い方ができるようになってほしいこと等を伝え、納得できるようにしましょう。
7 困ったら、すぐに相談します。	子供だけでは解決ができないことがあること、後回しにすればするほど解決が難しくなること等を伝えましょう。時々、ゲームの様子を一緒に見てみてください。
★ ルールを破った時は？	「ルールを守って使う」という決意表明として、子供自身に「もしも、ルールを守れなかったときはどうするのか」ということを考えさせましょう。ルールを守ることができなければ、ゲーム機等は使えないという確固たる姿勢を示すことも必要です。